

## 10 年前の名古屋「平和公園」

これまで多くの写真を撮ってきたが、うまく整理できていない。つい昔を思い出そうと、保存してある写真を眺める。

今から 10 年前の 2008 年 3 月の写真に注目した。名古屋市千種区星ヶ丘の自宅から数分、地下鉄星ヶ丘駅をすこし北に行くと「大乘寺」がある。豊かな緑に包まれた、曹洞宗のお寺だ。境内の片隅に竹林があり、季節ごとに写真を撮った。「星ヶ丘山手霊園」を上がっていくと、昔ながらの「里山」の気分を味わえる道がつづく。平和公園南部の山道である。

ここは「名古屋オリンピック」メイン会場予定地であった。1979 年に名古屋市立女子短大に就職が決まり、東山の新池近くに住んだ頃のことだ。平和公園南部というと、五輪誘致「騒動」を思い起こす。

名古屋五輪は幻のものとなり、平和公園の自然は残った。日曜日など「里山」を散策する多くの人たちを見かけた。その後、公園一帯で大規模な「改修」が行われ、昔ながらの景観も様変わりした。

写真の「平和公園 1 万歩コース案内図」を見ると、広大な公園の輪郭がわかる。足に自信のあったときは、1 万歩コースをぐると回ったものだ。西端にある猫ヶ洞池は、市内を縦断する山崎川の源流の一つであり、まち歩きのコースであった。

この平和公園について、『新修名古屋市史』第 7 巻第 1 章 3 節「戦後のまちづくり」から紹介したい。

名古屋市の復興区画整理事業は寺院の協力により、平和公園への墓地移転（飛び換地）によって実現が可能になった。市内にあった墓地を市が買収していた郊外地（1947 年に事業区域に編入）と交換し、市有地とした墓地跡地を公共用地化して減歩率を低く抑えることで、地権者の負担を軽減し、都心部での区画整理を可能にしたわけである。その郊外地は市内有数の墓地公園（平和公園）として整備されていく。

写真は執筆者の佐藤圭二先生が 1998 年に撮影された。佐藤先生には、名古屋のまちづくりや住宅政策などの調査研究でお世話になった。



写真 1-23 整備された墓地公園（平和公園）  
（佐藤圭二撮影 1998年）

（2018 年 6 月 10 日）